

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー
2023年度事業報告

1. 事業の推進

1) 公益目的事業

(1) 関東活動センター、関西セミナーハウス活動センター

- ① フォーラム事業及び研修・セミナー・体験交流事業を継続し、発展させた。
- ② アカデミー運動の理念に従って今日的な社会の課題に対する認識を深め、それにふさわしい新規プログラムの開発に取り組んだ。

(2) 関西セミナーハウス

- ① 当財団の事業展開の拠点として、関西セミナーハウス活動センターの公益目的事業に施設を提供した。
- ② 当財団の目的達成に資する諸団体が行う公益目的事業を支援するため、宿泊施設及び会議場を諸宗教団体、労働組合、文化・社会活動団体、教育機関・学会・研究会等に供した。

(3) 広報活動

- ① 関東活動センター、関西セミナーハウス活動センター及び関西セミナーハウスの活動状況について、機関紙「はなしあい」、ウェブサイト等によって継続的に情報を発信した。
- ② 機関紙、ウェブサイト等により、年度事業計画、収支予算、事業報告、決算報告、その他当財団に関する情報を公開した。

2) 収益事業

(1) 関西セミナーハウス

公益目的利用外の一般利用者、企業等への宿泊研修施設の貸出を行い、その収益の一部を公益活動に資した。

(2) 日本キリスト教会館

当財団所有の事務所用物件の一部を貸与し、その収益を公益活動に資した。

2. 事業運営推進

公益目的事業の推進に当たっては、継続的事業、新規プログラムを問わず、予算計画を持ち、必要財源を確保しつつ、安定的継続可能な運営を行った。

3. 賛助会員、寄附金

公益法人への寄付により受けられる税制優遇措置を活用し、アカデミー運動を支援する賛助会員および寄附者からの支援を仰いだ。

< 2023年度事業活動報告 >

I 財団本部

1. 組織（2024年3月31日現在）

1) 理事会

理事 中村 信博（代表理事）、戒能 信生、神保 正男、神田 健次、
榎本 栄次、神崎 清一（計6名）

2) 監事

黒岩 裕二、柳井 一郎（計2名）

3) 評議員会

評議員 小原 克博（評議員長）、木原 活信、増田 琴、
横野 朝彦、原 牧人、山本 俊正（計6名）

4) 事務局

神崎 清一（事務局長、他4名）

2. 会議

1) 理事会

第1回 理事会（定時）2023年5月30日（火）オンライン会議
主な決議：2022年度事業報告、2022年度決算報告、
2022年度監査報告、2023年度定時評議員会招集

第2回 理事会（臨時）2023年6月22日（木）オンライン会議
主な決議：）代表理事選定の件ならびに代表理事代行、財
務・財務担当理事選定

第3回 理事会（臨時）2023年11月2日（木）オンライン会議
主な決議：2024年度事業計画ならびに予算策定スケジ
ュール、2024年度運営体制などについて協議、

第4回 理事会（臨時）2024年1月30日（火）オンライン会議
主な決議：2024年度事業計画策定方針、予算編成方針、
キリスト教会館管理費の改定、運営委員会規則改定の件

第5回 理事会（定時）2024年3月11日（月）オンライン会議
主な決議：2024年度事業計画、2024年度収支予算、
2024年度設備投資計画、東・西活動センター運営委員委
嘱、所長および代理・代行選任、事務局長ならびに顧問委嘱

2) 評議員会

第1回 評議員会（定時）2023年6月21日（水）
オンライン会議

主な決議：2022年度事業報告、2022年度決算報告、
2022年度監査報告、理事・監事選任の件

3. 広報

機関紙「はなしあい」発行

2023年5・6・7月（630号）、8・9・10月（631号）、

11・12月・2024年1月（632号）、2・3・4月（632号）
（計4回）

4. 収益事業

当財団が持分を有する日本キリスト教会館の一部を以下の4団体に賃貸した。日本基督教団出版局、特定非営利活動法人スペシャルオリンピックス日本・東京、日本基督教団全国教会婦人会連合、公益財団法人東京YMCA

5. 役員懇談会

本法人の理事・監事・評議員ならびに各委員会委員長など、運営を担っている方々を対象に、コロナ禍の期間ではなしえなかった対面方式による研修と懇談の時を実施した。本法人の現状と課題、各会議体ならびに各委員会の取り組みを共有し、今後の取り組みについて意見交換を行った。

あわせて、ドイツをはじめとした諸外国のアカデミー運動の状況について学ぶ機会として開催。

日程 2024年2月23日～24日 場所 関西セミナーハウス

II 関東活動センター

1. 組織（2024年3月31日現在）

1) 運営委員会

運営委員 戒能 信生（運営委員長）、
原 牧人、古賀 博、郡山 千里、西川 嗣夫、平井 祐美子、
進藤 重光、浦上 充、東矢 高明（計9名）

2) スタッフ

所長代行 原 牧人
ボランティア・スタッフ 神保 信子（事務局）

2. 運営委員会

第1回 2023年5月18日（木）（リモート開催）

Covid-19 感染症を考慮して、当面、運営委員会はリモート開催とすること、新年度各講座のリモート開催による諸問題、またキリスト新聞社から刊行された『コロナ後の教会の可能性』（ブックレット）の出版協力費の負担などについて協議した。

第2回 2023年7月27（木）（リモート開催）

covid-19 の5類以降のプログラム展開について協議した。各プログラムの進行状況の報告や、リモート開催による諸問題への対応、また感染予防方策などについて協議した。

第3回 2023年9月21日（木）（リモート開催）

各プログラムの実施状況を報告し、2024年3月に予定されていた第13回神学生交流プログラムを久しぶりに対面様式で実施することを確認した。

第4回 2023年11月30日（木）（リモート開催）

次年度の新規プログラムの可能性について協議した。また新年

度からの事務局体制、運営委員長・所長代行の交代の可能性についても話し合った。

第5回 2024年2月15日（木）（リモート開催）
2024年度以降の事務局体制、運営委員長、所長代行の交代について協議し方向性を確認した。今年度のプログラム状況の検討と反省、次年度の事業計画について協議した。

第6回 2024年3月28日（木）（久しぶりに事務所で対面実施）
2023年度の事業報告と、2024年度の事業計画の確認。
新年度から新しく運営委員に加わる委員との顔合わせ。また8年にわたってボランティアで事務局体制を担ってくださった神保信子さんへの感謝など。

3. プログラム活動

1) フォーラム事業

(1) 関東フォーラム 今日の課題Ⅰ

2021年度の共同研究「コロナ後の教会の可能性」の成果をキリスト新聞社より刊行（2023年4月）

(2) 関東フォーラム宗教対話Ⅰ

連続講座「日本キリスト教史を読む」第Ⅰ期（大正篇 アンコール開講）講師・戒能信生（千代田教会牧師）、全面リモート開講（Zoom）、受講登録者数約40名

第1回 5月11日（木）「この国の讃美歌を創った由木康の生涯と信仰」

第2回 6月8日（木）「赤岩栄 そのキリスト教批判と闘いの生涯」

第3回 7月13日（木）「木俣敏 農村伝道と伝道圏伝道に尽した生涯」

第4回 8月10日（木）「戦争責任告白を担った鈴木正久の生涯と信仰」

第5回 9月14日（木）「神の痛みの神学を提唱した北森嘉蔵の生涯」

第6回 10月12日（木）「バルトの翻訳と平和運動と担った井上良雄」

第7回 11月9日（木）「隅谷三喜男の生涯とその人格的信仰」

(3) 関東フォーラム 宗教対話Ⅱ

連続講座「キリスト教文学に学ぶ」第2期 講師・山根道公・山根知子、全面リモート開催、受講登録者19名

第1回 5月29日（月）「遠藤周作『沈黙』に込められた過

半生の信仰の問題」

第2回 6月26日(月)「遠藤周作『沈黙』に描かれた信仰体験と聖書」

第3回 7月24日(月)「遠藤周作『深い河』に込められた宗教性」

第4回 9月25日(月)「遠藤周作『深い河』からマザーテレサ、宮沢賢治へ」

第5回 10月23日(月)「宮沢賢治 妹トシの信念にみるキリスト教的要素からの影響」

第6回 11月27日(月)「宮沢賢治『銀河鉄道の夜』に至る賢治の信仰の深まり」

(4) 関東フォーラム 宗教対話Ⅲ

読書会「キリスト教と文学」講師・柴崎聰(詩人)、対面方式で開催、受講登録者数21名

第1回 5月16日(火)「山本周五郎『さぶ』」参加者13名

第2回 6月20日(火)講師の急病により休講

第3回 7月18日(火)「阪田寛夫『土の器』」参加者14名

第4回 9月19日(火)「シェークスピア『オセロー』」参加者11名

第5回 10月17日(火)「井上ひさし『12人の手紙』」参加者10名

第6回 11月21日(火)アガサ・クリスティー『ベツレヘムの星』参加者11名

第7回 1月16日(火)「長与善郎『青銅の基督』」参加者11名

第8回 2月20日(火)スティーブン・キング『グリーンマイル』参加者10名

第9回 3月19日(火)辻邦生『安土往還記』参加者7名

(5) 関東フォーラム 宗教対話Ⅳ

柏木義円公開講演会、講演「柏木義円の日記を読む」講師・片野真佐子、山下智子、戒能信生、全面リモート開催、受講者約30名 共催 柏木義円研究会
2023年11月18日(土)

2) 研修・セミナー・体験交流事業

(1) 神学生交流プログラム

第13回神学生交流プログラム

2024年3月18日(月)～20日(水)

校長 神田健次（関西学院大学名誉教授）

講師 原誠（同志社大学名誉教授）

委員 古賀博、浦上充、仲程愛実、吉岡恵生、戒能信生

久しぶりに対面方式（一部リモート参加も）で実施した。6 神学校から神学生計 8 名の参加。三日目は、フィールドトリップとして京都周辺の切支丹遺跡を神田健次先生の案内で見学した。

（2）聖書を教材として用いる講座

①聖書を読む講座Ⅰ 「新しい聖書の学び マルコ福音書をじっくり読むⅥ」講師・山口里子、全面リモート開催、受講登録者 68 名 譲次 40 名以上がライブ受講、その他は録画受講
なお、本講座の内容が新教出版社から『マルコ福音書をじっくりと読む そして拓かれる未来の道へ』として刊行された。

第 1 回 4 月 11 日（火）

第 2 回 5 月 9 日（木）（講師の急病により休講）

第 3 回 6 月 13 日（火）ベルナデッテ参加の特別講演

第 4 回 7 月 11 日（火）

第 5 回 9 月 12 日（火）

第 6 回 10 月 10 日（火）

第 7 回 11 月 14 日（火）

第 8 回 12 月 12 日（火）

第 9 回 1 月 9 日（火）

第 10 回 2 月 13 日（火）

第 11 回 3 月 12 日（火）

4. 評価と展望

- 1) 2023 年度関東活動センターの運営は、Covid-19 感染症が第 5 類に移行された中でも、基本的にリモートで開催された。またいくつかのプログラムを試験的に対面方式で行うこともできた。コロナ後のプログラム展開を模索中である。
- 2) キリスト教会館 1 階の事務所も、原則として週に一度開室し、ボランティア・スタッフの神保信子さんの協力を得て事務局体制を維持することができた。8 年にわたって事務局を担ってくださった神保信子さんが退任し、2024 年度から浦上佳織さんが担ってくれることになった。
- 3) 第 13 回神学生交流プログラムは、久しぶりに対面で実施することができた。セミナーハウスを会場にしたこともあって、例年よりも参加者が少なかったが、内容的には充実したプログラムであった。ただ財政的に費用がかかることが課題ではある。
- 4) プログラムの中で、特に早稲田奉仕園との共催プログラムについては、リモート開講などの体制について多大な協力を得た。今後とも、早稲田

奉仕園との協力体制を整えていくこととしたい。

- 5) 2021-22年度に実施した共同研究「コロナ後の教会の可能性」の成果を出版するためにその出版協力費の捻出や様々な困難があったが、2023年4月にキリスト新聞社からブックレット『コロナ後の教会の可能性 危機下で問い直す教会・礼拝・宣教』として刊行することができた。幸い各方面から評価を得ている。
- 6) 2024年度からは、関東活動センターの運営委員の顔ぶれも刷新され、新しい態勢で出発する。キリスト教会館の維持や管理組合の問題など課題もあるが、今後のさらなる進展を期待している。

Ⅲ 関西セミナーハウス活動センター

1. 組織（2024年3月31日現在）

1) 運営委員会

運営委員 小久保 正（委員長）、後宮 嗣、榎本 栄次、小笠原 純、織田 雪江、鳥井 清司、Christian Morimoto Hermansen、丸山 まり子、村上 みか、柳井 一朗、山本 知恵、山本 俊正（計12名）

2) スタッフ

所長代行 榎本 栄次
事務局 都木 かおり

2. 運営委員会

第1回 2023年4月15日（土）（ウェブ併用）

主な決議：6～7月のプログラム。修学院フォーラム「いのち」第2回、「社会」第1回、「エネルギーを考える」第11回、開発教育セミナー第1回、第2回、要項と予算承認。賛助会費と寄付金の扱い。公益法人クリスチャン・アカデミーの目的、組織、部門間の収支バランス。
継続審議：広報活動、YouTube ライブラリーの運用。

第2回 2023年5月13日（金）

主な決議：9月以降プログラム、11月「洛北の秋を静かに味わう」（仮）募集定員、準備委員会メンバーと開催予定。活動支援特別寄付金に関する内規、原則承認、確認事項次回継続。
継続審議：YouTube ライブラリーの運用。オンライン納付・寄付金システム導入について。

第3回 2023年6月10日（土）（ウェブ併用）

主な決議：9月以降プログラム、「京都の秋を愛でる～ウクライナの和を願って～」改題、呼びかけ文、講師4名決定、1名は継続交渉。
継続審議：活動支援特別寄付金に関する内規、オンライン納付金・寄付金システム。

- 第4回 2023年7月22日（土）（ウェブ併用）
主な決議：9月以降プログラム、開発教育セミナー第3回、第4回、第5回要項と予算承認。エキュメニカル・ネットワーク第5回協議会（8月）後援依頼、承認。活動支援特別寄付金に関する内規最終案。
継続審議：、YouTube ライブラリー運用方法、オンライン納付金・寄付金システム。
- 第5回 2023年9月2日（土）（ウェブ併用）
主な決議：10月以降のプログラム、修学院フォーラム「社会」第3回、「いのち」第3回要項と予算承認。「京都の秋を愛でる～ウクライナの平和を願って～」進捗。修学院フォーラム 進め方見直し。コーヒー提供再開。終了と講師を囲む会（自由参加）を行う。参加費現状維持。運営委員協力体制。
継続審議：YouTube ライブラリー運用方法、オンライン納付金・寄付金システム。
- 第6回 2023年10月7日（土）（ウェブ併用）
主な決議：12月以降のプログラム、修学院フォーラム「社会」第4回要項と予算、開発教育セミナー第6回要項と予算、修学院フォーラム「福祉」第1回要項と予算承認。YouTube ライブラリー案内オンライン決済サイトに掲載。クリスマス寄付金願、承認。開発教育関連プログラム（1月、主催：（特活）開発教育協会）協力依頼、承認。
継続審議：オンライン納付金・寄付金システム。
- 第7回 2023年11月11日（土）（ウェブ併用）
主な決議：1月以降のプログラム、修学院フォーラム「福祉」第2回（共催：京都YWCA）企画承認。YouTube ライブラリー運用方法。オンライン納付金・寄付金システム経費。2024年度プログラム計画、課題別の担当委員会制導入。
継続審議：次期運営委員推薦。
- 第8回 2023年12月9日（土）（ウェブ併用）
主な決議：1月以降のプログラム、修学院フォーラム「福祉」第2回進捗、要項はメール回付。次年度修学院フォーラム参加費。1月8日臨時運営委員会開催（Zoom）。第11回運営委員会日程3月9日に変更。
継続審議：次期運営委員推薦、2024年度プログラム計画、予算。
- 臨時開催 2024年1月8日（月）（ウェブ開催）
2024年度プログラム計画検討。
- 第9回 2024年1月13日（土）（ウェブ併用）
主な決議：1月以降のプログラム、修学院フォーラム「いのち」

第4回要項と予算承認。次期運営委員推薦名簿承認。運営委員定員15名に変更を理事会に提案。2024年度プログラム計画、重点テーマ「戦争と平和」を設け、関連プログラムをシリーズ化する。出版検討。担当委員を立てる。オンライン納付金・寄付金システム稼働開始。

継続審議 YouTube ライブラリーの充実、HP 改善検討。

第10回 2024年2月3日（土）（ウェブ併用）

主な決議：2024年度4月以降のプログラム、修学院フォーラム「社会」第1回、要項と予算承認。次期運営委員確定。2024年度事業計画案、予算案概算、参加費、謝礼設定など承認。運営委員、参加費負担なし継続、広報協力。オンライン納付金・寄付金システム QR コード活用。

継続審議 2024年度予算案。

第11回 2024年3月9日（土）（ウェブ併用）

主な決議：2024年度5月以降のプログラム、修学院フォーラム「社会」第2回、第3回 要項と予算承認。2024年度実施計画、チラシ準備、発送日程、。プログラム支援特別寄付金資金使途「京都の秋を愛でる」赤字分に適用承認。オンライン納付金・寄付金システム、YouTube、参加申し込みオンライン決済受付4月稼働開始。Facebook 開設、運用開始。2024年度寄付願い修正、発送承認。2024年度運営委員会日程。期末資金繰、本部資金申請。

継続審議 「戦争と平和」シリーズ書籍化検討。

3. プログラム活動

1) フォーラム事業

(1) 修学院フォーラム 社会

目的 平和憲法、環境、兵役拒否、エネルギーと原発などの問題を共に考える。

第1回 題「憲法9条は死んでしまうのか？」

2023年6月17日（土）ウェブ、会場併用

講師：高作正博（関西大学法学部教授）

参加者 11名

第2回 題〈エネルギーを考えるー10〉

「原発回帰か再生エネルギー活用か

私たちはどんな世界を目指すのか？」

2023年7月30日（日）～31日（月） 対面開催

講師：福島 揚（神学者）

片岡輝美（会津放射能情報センター代表）

近藤 恵（二本松営農ソーラー株式会社代表取締役）

牛山 泉（足利大学 理事・名誉教授）

参加者 40名

第3回 題「聖書をエコロジーの視点で読む
エコロジカル聖書解釈への招き」

2023年10月21日（土）ウェブ、会場併用

講師：大宮有博（関西学院大学法学部教授）

参加者 12名

第4回 題「戦争と兵役を拒否した人びと
一二つの世界大戦時の英米と日本」

2023年12月2日（土）ウェブ、会場併用

講師：西村裕美（元立教大学コミュニティ福祉学部
教授）

参加者 17名

(2) 修学院フォーラム いのち

目的 ジェンダー、性の多様性、性倫理を聖書に問い、また、
旧約聖書のもつ現代的意義について考える。

第1回 題「研究の主体でもない、対象でもない『女性』
～日韓キリスト教関係史から探る～」

2023年4月22日（土）ウェブ、会場併用

講師 神山美奈子（名古屋学院大学商学部准教授）

参加者 16名

第2回 題「聖書に向き合う

LGBTQ+（プラス）のキリスト者たちと」

2023年6月3日（土）ウェブ、会場併用

講師：ベルナデッテ・J・ブルーテン

（ブランダイス大学名誉教授、学術博士・神学博士）

〈通訳〉渡邊さゆり（日本バプテスト同盟駒込平和教会
牧師）

参加者 30名

第3回 題「旧約聖書と現代

人間と自然、人間と社会、人間と文明」

2023年11月3日（金・祝）～4日（土）対面開催

講師：月本 昭男（古代オリエント博物館館長）

参加者 21名

第4回 題「現代社会におけるキリスト教性倫理の基盤をめぐ
って」

2024年3月2日（土）ウェブ、会場併用

講師 朝香知己（同志社大学神学部嘱託講師）

参加者 10名

(3) 修学院フォーラム 福祉

目的 医療、ケア、生きづらさなどの問題を考える。

第1回 題「スピリチュアルケアのこころ
ーホスピスにおける宗教の役割」
2024年1月27日（日）ウェブ、会場併用
講師 ティモシー・ベネディクト
（関西学院大学社会学部准教授）
参加者 20名

第2回 題「トラウマインフォームドケアと支援者支援
～トラウマを負う人に向き合うために～」
共催（公財）京都YWCA ウェブ、会場併用
2024年2月17日（土）
講師：小川 恵美子（精神保健福祉士）
参加者 30名

2) 研修・セミナー・体験交流事業

（1）開発教育セミナー〔対面開催〕

目的 人権・平和・環境などの地球的課題を参加型学習で学び、
私たちの社会のありようを考える。

第1回 題「開発教育入門セミナー
～SDG sを自分ごとに」
2023年6月18日（日）
共催 京都市国際交流協会 会場 京都市国際交流会館
講師 岡本領子、佐藤友紀、織田雪江、丸山まり子
（関西セミナーハウス活動センター開発教育研究会）
参加者 26名

第2回 題「地球と食の未来を考える
～人も自然も壊さない経済とは？～」
2023年7月8日（土）～9日（日）
講師 平賀緑（京都橘大学経済学部経済学科准教授）
参加者 16名

第3回 題「私の“伝えたい”を探すワークショップ」
2023年9月9日（土）～10日（日）
講師 くるみざわしん（劇作家・精神科医）
参加者 16名

第4回 題「ウトロで考える人権・平和
～これまでの活動に学び、多文化共生社会を創造しよう～」
2023年10月7日（土）～8日（日）
フィールドワーク（宇治市ウトロ地区）
講師 金 秀煥（キム・スファン）
（ウトロ平和祈念館副館長）
参加者 23名

第5回 題「主体的に行動する市民を育む

～「南」の島の出会いの現場から～

2023年11月4日（土）～5日（日）

講師 藤野 達也（Evangelical Lutheran Church
PNG, Lutheran Development Service）

参加者 17名

第6回 題「マイクロアグレッションってなあに？

～日常に埋め込まれた差別と向き合う～」

2023年12月2日（土）～3日（日）

講師 北川 知子（特定非営利活動法人とんだばやし
国際交流協会理事長）

参加者 18名

（2）お茶のころと宗教のころプログラム

開催なし。

（3）展示、講演会事業

もみじ企画「京都の秋を愛でる ～ウクライナの平和を願って」

2023年11月23日（木）～25日（土）

講師/ゲスト：渡辺総一

渡辺なお

神田健次

榎本 恵

橋本るつ子

沢 知恵

参加者 39名

4. 評価と展望

1. 関西セミナーハウスが全館使えるようになったので、活動センターの全プログラムを、関西セミナーハウスの会議室と宿泊施設を生かして開催することができ、大きな前進であった。休館中に使用し初めたオンライン方式も引き続いて併用したので、参加者の層を広げることが出来た。それにも関わらず、参加者は従来ほど多くは無い。より多くの参加者を得るために宣伝方法などの工夫が必要である。
2. エネルギーを考える1泊2日のフォーラムに学生を中心に40名の参加者を得たこと、旧約聖書と現代を考える月本昭男先生を講師とする1泊2日のフォーラムに21名の参加者を得たこと、「京都の秋を愛でる～ウクライナの平和を願って」と題する絵画と音楽を中心にする2泊3日のプログラムに39名の参加者を得たことは、意義深かった。
3. 戦争と平和、良心的兵役拒否、性差別、環境破壊、スピリチュアルケアなど、今日の世界が直面する重要課題について共に考えたことは、意義深かった。
4. 篤志家から100万円の活動支援特別寄付金を受けたので、それを

用いてエネルギーを考えるフォーラムの学生参加費補助、および、京都の秋を愛でるプログラムの講師謝礼等補助を行うことができた。

5. 寄付金、賛助会費、プログラム参加費、YouTube ライブラリー利用料などを、オンラインでクレジットカードを用いて行えるシステムを整えたので、今後それらにより、活動の活性化が期待される。
6. 年度当初に計画した活動は、多くの方々のご理解とご支援を得て、予定通り終えることができた。ただし賛助会費収入はほぼ予算を満たしたが、寄付金収入は予算に及ばなかった。結果として当活動センターは、年間100万円の補填を本部から受けねばならなかった。
7. 2022年12月に発行した開発教育教材集『身近なことから世界と私を考える授業Ⅲ』（当センター開発教育研究会編）は広く求められ、活用されている。

IV 関西セミナーハウス

1. 組織（2024年3月31日現在）

1) 経営委員会

経営委員 神崎 清一（委員長）、神保 正男、
中村 信博、柴田 賢司、森口 明洋（計5名）

2) 人事委員会

人事委員 神崎 清一（委員長）、神保 正男
柴田 賢司、森口 明洋（計4名）

3) 館長 森口 明洋

4) スタッフ 職員1名、パートスタッフ9名、茶室担当顧問1名

2. 事業実績

1) 利用状況（カッコ内は前年度比、資料参照）

① 年間の延宿泊者数

上期 1,818名

下期 2,441名

合計 4,259名（275%）（前年より2715名増）

① 個人団体比率

団体 4,231名（構成比99.3%）

個人 28名（構成比0.7%）

2) 公益目的事業と収益事業分類別

(1) 宿泊分類別

① 公益目的事業

・アカデミープログラム	256名
・キリスト教諸団体	266名
・教育関係・学会・研究会	1,203名
・労働組合・文化・社会活動団体	766名
・一般諸団体	361名

- | | |
|----|--------|
| 合計 | 2,852名 |
|----|--------|
- ② 収益事業
- | | |
|---------|--------|
| ・一般諸団体 | 649名 |
| ・一般企業 | 73名 |
| ・人材育成法人 | 645名 |
| ・個人 | 28名 |
| 合計 | 1,407名 |
- (2) 当日利用分類別
- | | |
|-----------------|------|
| 公益目的事業 | |
| ・アカデミープログラム | 87名 |
| ・キリスト教諸団体 | 20名 |
| ・教育関係・学会・研究会 | 145名 |
| ・労働組合、文化・社会活動団体 | 247名 |
| ・一般諸団体 | 65名 |
| 合計 | 564名 |
- (3) 宿泊及び当日利用合計
- | | |
|--------|--------------------|
| 公益目的事業 | 3,416名 (構成比 70.8%) |
| 収益事業 | 1,407名 (構成比 29.2%) |
- 3) 損益実績 (資料参照)
- ・年間宿泊者数は目標4,000名に対し4,259名(106%)である。上半期はコロナ5類引き下げが5月だったこともあり、4月・5月は低調だった。下半期は1月・2月の閑散期も宿泊団体が一定数あり上半期より623名増えた事で年間の宿泊者数を押し上げた。
 - ・売上実績は計画6,161万円に対し6,688円(109%)前年比264%である。
 - ・宿泊利用団体の分類別内訳は2022年度から傾向が変化し、教育関係・学会・研究会がトップ(28%)となった。コロナ以前に最多であった一般企業は全体の2%であり、まだ回復していない。
 - ・支出実績は、売上原価3,722万円(前年比211%)、一般管理費3,377万円(前年比147%)である。
 - ・その結果、営業利益は、△411万円となり、計画の△751万円から340万円の増益である。
- 4) 資金繰り
- 3月末の現金および預金の残高は3,077万円である。
 なお、この残高には清心会残高191万円を含んでいる。
- 5) 寄付金
- 関西セミナーハウス単独で寄付金を募集し、実績110万円である。
- 6) 広報活動
- ・ホームページへの訪問回数は、前年度比139%(31,140回)

であり、コロナ流行前の2019年度（34,534回）と同等である。

- ・ホームページのブログ更新回数は8回、雲母能と宿泊プランを告知した2月は前月の倍以上アクセスが増えた。（2月は1,565回）、Instagramは33回更新した。

3. 評価と展望

1) 運営状況

- ・コロナにより臨時休館解除3年目となる本年度は、コロナ以前同様に複数団体の同時受入れを行った。客室の利用状況はシングル利用と相部屋利用の団体は約半々である。
- ・個人宿泊プランについてはイベントを除き休止が続いた。問合せは頻繁にあるが、宿泊団体が無い日も多く、宿泊客の受け入れ態勢が万全でないため個人宿泊プランの再開は難しかった。次年度はシーズン毎のイベントを通じて限定的な個人宿泊プランを実施する。また、休止しているロビーでの喫茶営業も同様な実施方法を検討する。
- ・食堂について、スタッフの負担軽減および料理の品質向上のため1月に食堂および厨房を改装した。改装後は料理をテーブルに配膳せず、カウンターにおいてお客様自身に料理を取り分けてもらう方式（セルフ式）に変更し、朝食・昼食で運用を開始した。それによって食事開始時間に遅れた顧客にも温かい料理が提供できるようになった。また、ホールに手洗い器を2台新設し利便性が向上した。内装も更新し雰囲気明るくなった。
- ・宴会等について、コロナが落ち着き少しずつ宴会の需要が戻ってきた。単価5,000円以上の宴会等は21団体延べ643名の利用があった。（宿泊者数比率15%）
- ・人員について、秋の繁忙シーズンに向けて客室担当2名、植栽管理1名、合計3名のパートスタッフを採用した。3月末時点で館長、会計、計2名の職員とパート計9名体制である。客室業務の人員補充ができたため、今年度は外部委託をしなかった。

2) 設備投資と修繕費

設備投資について、200万円計画したが、食堂の改装工事（400万円）など大幅に内容を追加した。このほか食堂セルフ式への変更に伴う備品購入、茶室のエアコン新設や大会議室音響設備強化など前向きな投資ができた。1階玄関前ロビーのエアコン、客室のルームエアコンの故障が相次ぐなど予期せぬエアコンの修理が重なり、やむを得ず修繕費予算を超過した。次年度の計上となるが、さらに1階事務所およびロビー北側、1階アゴラホールのエアコンも故障し入替工事を行っている。他に次年度の修繕および設備投資として、厨房エアコン入替、茅葺門葺き替え、国際交流ホールの改装工事などを予定している。

添付資料：２０２３年度関西セミナーハウス損益計算書実績

V 本部２０２３年度事業報告

１．運営体制

事務局と各事業単位の会計について連携について新年度予算作成などにも連携をすすめることができた。今後は執行についても連携に努める。

２．寄附金

インターネットによる募金方法の導入について検討し、関西活動センターにおいて、先駆けて２０２４年度より実施できることとなった。

寄付金制度等について検討については、各募集時期についての調整にとどまった。

３．広報活動

機関紙「はなしあい」の新たな形態による発刊として、内部印刷、A4 サイズへの変更。カラー化への変更を行った。（２０２４年２月発刊より）広報媒体、広報対象の検討については次年度以降の継続課題となった。

４．ドイツをはじめとする海外のアカデミー運動との連携を図るためのタスクチームで検討し、役員懇談会において共有の機会を持つことができた。

（ 以上 ）